株式会社 丸井グループ

2027年3月期 第1四半期決算概要

MARUI GROUP

2026年8月4日

加藤です。
私から2027年３月期第１四半期の決算概要をご説明いたします。
どうぞよろしくお願い致します。

27年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

・連結
・小売
・フィンテック
・「好き」を応援するビジネス
・バランスシート/資本配分
・ESG
・通期見通し

内容はご覧のとおりです。

27年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

・連結
・小売
・フィンテック
・「好き」を応援するビジネス
・バランスシート/資本配分
・ESG
・通期見通し

まずは連結決算についてです。

決算ダイジェスト

① **総取扱高は10%増の1兆4,060億円（前年差＋1,220億円）**

② **営業利益は10%増の154億円（前年差＋15億円）**

- ○ 小売は9億円増益の34億円
- ○ フィンテックは5億円増益の140億円
  債権流動化影響を除く営業利益は23億円増益の158億円

③ **経常利益は3%増の128億円（前年差＋4億円）**
債権流動化影響を除く経常利益は18%増の146億円（前年差＋22億円）

当期利益は14%増の90億円（前年差＋11億円）

▼

総取扱高・営業利益・経常利益・当期利益は、すべて過去最高を更新

4

決算ダイジェストは3点です。

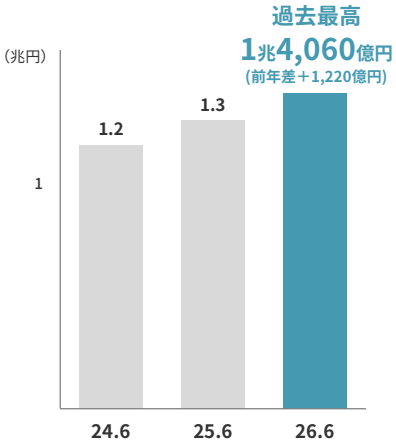
まず、総取扱高は10%増の1兆4,060億円となりました。

次に、連結営業利益は10%増の154億円で15億円の増益、
セグメント別では、小売が9億円増益の34億円、フィンテックが5億円増益の140億円、
なお、債権流動化の前年差影響を除く営業利益は23億円の増益となりました。

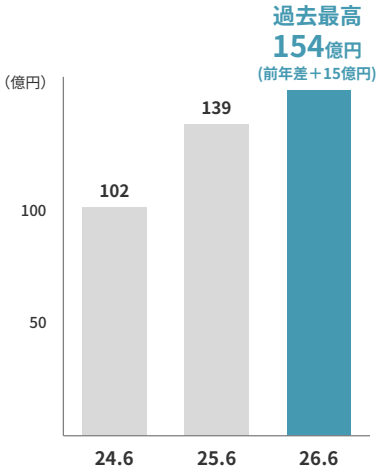
経常利益は3%増の128億円、債権流動化を除く経常利益は18%増の146億、
当期利益は14%増の90億円となりました。
以上の結果、総取扱高、営業利益、経常利益、当期利益のいずれも過去最高となりました。

財務指標

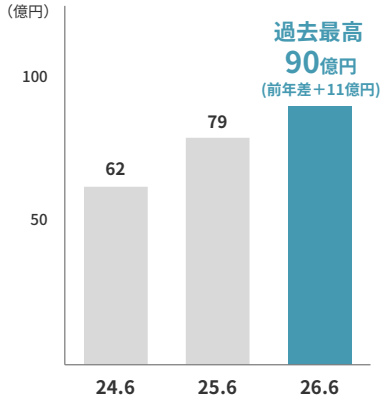
■ グループ総取扱高



■ 営業利益



■ 当期利益



5

財務指標の推移です。

総取扱高が1,220億円増の１兆4,060億円と高伸長したこともあり、
ダイジェストでご説明したとおり、営業利益、当期利益ともに大幅に増益し、
いずれも過去最高になりました。

営業外損益 / 特別損益の状況

	26年3月期 1Q	27年3月期 1Q	前年比	前年差	前年差要因
	億円	億円	%	億円	
営業利益	139	154	110	＋15	小売　＋9 ﾌｨﾝﾃｯｸ　＋5
営業外収益	4	5	127	＋1	
営業外費用	19	31	160	＋11	金融費用 ＋9 ＜金利上昇＋8 残高＋1＞
経常利益	124	128	103	＋4	
特別利益	2	0	11	△2	不動産売却 △1 保有株売却 △1
特別損失	7	2	33	△4	除却損 △2 株式減損 △2
税引前利益	119	126	106	＋7	
法人税等	40	36	90	△4	
当期利益	79	90	114	＋11	

6

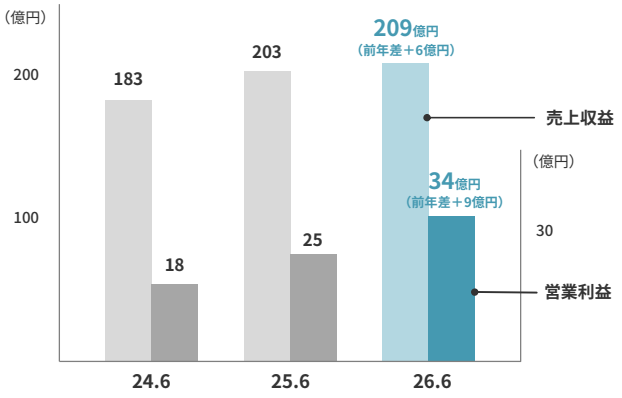
営業外・特別損益の状況です。

営業外費用は金利上昇の影響などにより、前年に比べ11億円増加したものの、
経常利益は3%増と増益しました。

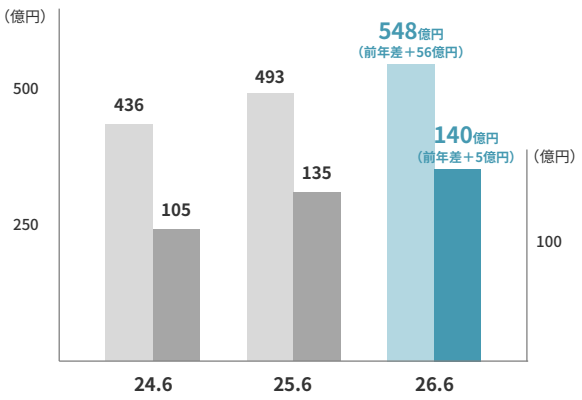
また、特別損失や税金費用が前年より減少したこともあり
当期利益は14%増、11億円増益の90億円となりました。

セグメント別の状況（売上収益・営業利益）

■ 小売



■ フィンテック

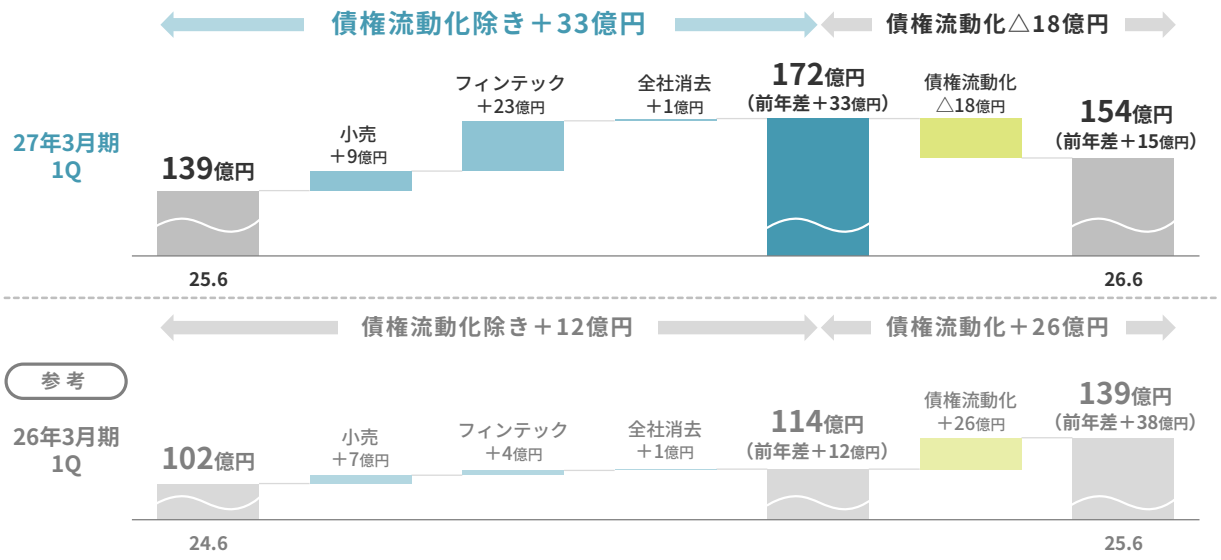


7

セグメント別の売上収益と営業利益の推移です。

両セグメントともに増収増益の決算となり、着実に営業利益は増益しています。

営業利益増減の内訳



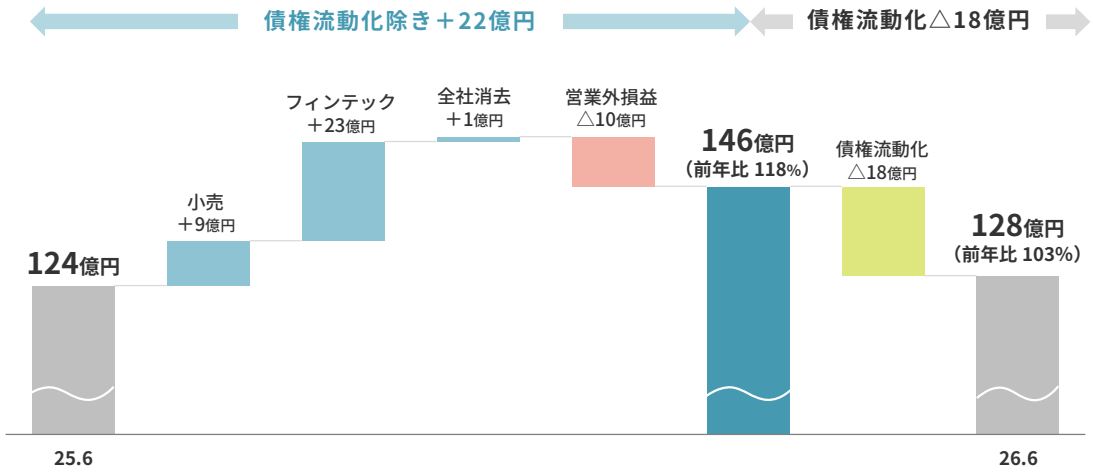
8

続いて、営業利益の増減内訳です。

小売で＋9億円、フィンテックで＋23億円、全社で＋1億円となり、
債権流動化除きの営業利益は33億円の増益。
昨年、債権流動化を第１四半期に前倒しで実施した影響により営業利益は15億円の増益となりました。

経常利益増減の内訳

債権流動化影響を除く経常利益は18%増の146億円



9

経常利益の増減内訳です。

金融費用の増加により、営業外損益は前年からマイナス10億円となりましたが、
小売、フィンテック両セグメントが大幅に増益したことにより
債権流動化の前年差影響を除いた経常利益は、18%増の146億円となりました。

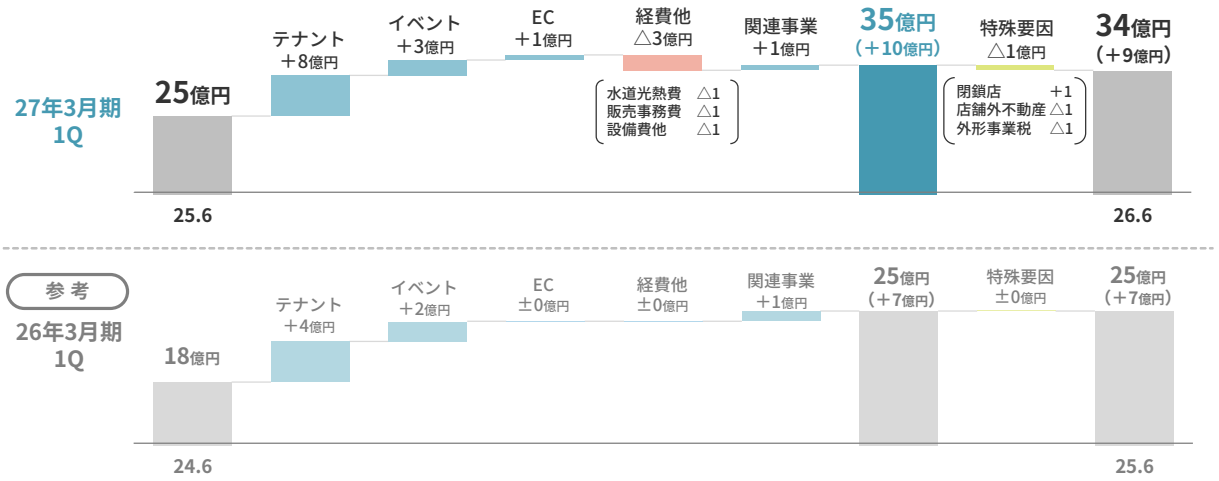
27年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

・連結
・小売
・フィンテック
・「好き」を応援するビジネス
・バランスシート/資本配分
・ESG
・通期見通し

続いて事業別の状況です。
まず、小売の状況です。

小売　営業利益の増減内訳

第1四半期の営業利益はテナント・イベント収入の増加等により9億円の増益



営業利益の増減内訳です。

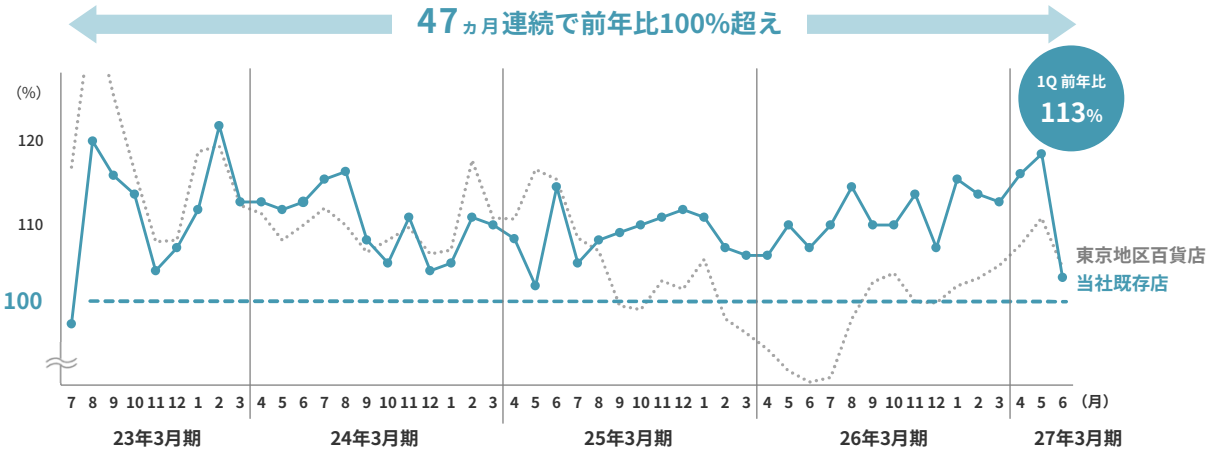
未稼働面積の減少や賃料単価の上昇によりテナントで8億円、
イベントは音楽アーティストの大型イベント好調により3億円増加し、
営業利益は9億円の増益となりました。

小売　既存店取扱高の状況

MARUI GROUP

既存店取扱高は47ヵ月連続で前年実績を上回る

■ 既存店取扱高の月別前年比推移



＊東京地区百貨店：日本百貨店協会 東京地区売上高概況 前年同月比

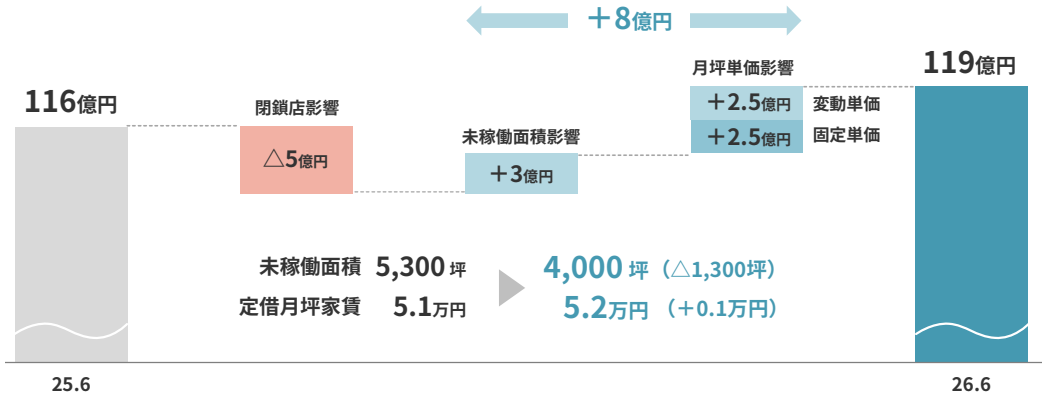
取扱高の状況です。

既存店舗の取扱高は、47ヵ月連続で前年を上回っております。

テナント収入の状況

定借面積の増加と月坪家賃の単価アップ等で、閉鎖店影響を除くテナント収入は前年に対し8億円増加

■ テナント収入の増減内訳

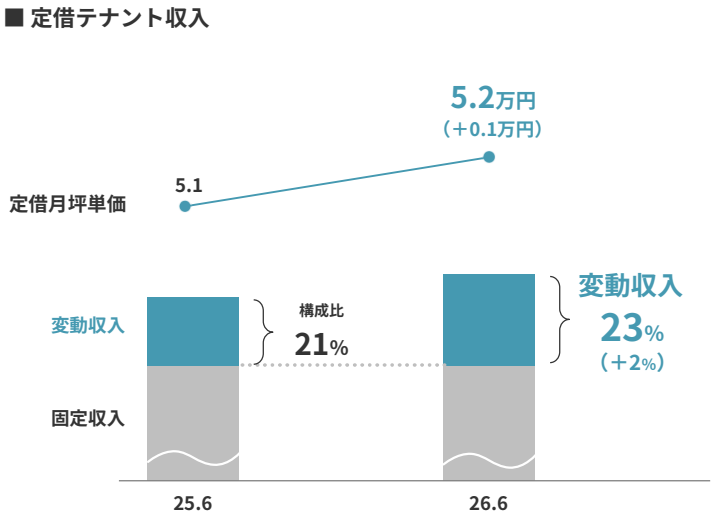


テナント収入の増減要因です。

閉鎖店の影響が5億円減、未稼働面積の減少と変動家賃の増加により、
テナント収入は8億円増加いたしました。

変動収入の状況

テナントの入替と変動収入の拡大に取り組むことで、定借テナント収入の増加を実現



14

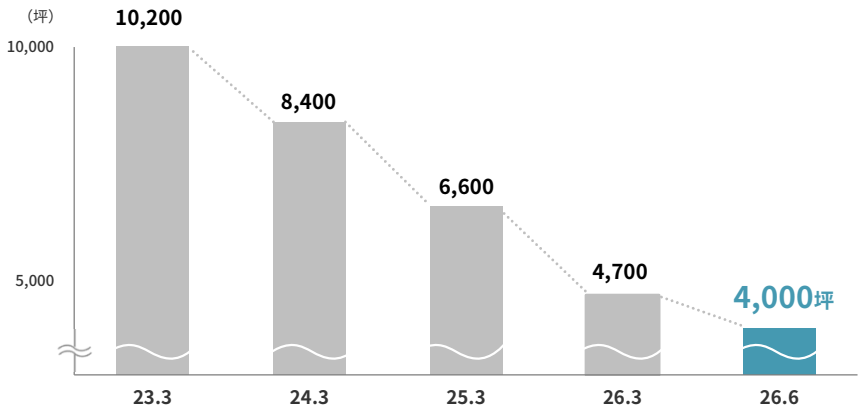
変動収入の状況です。

第1四半期は取扱高が好調に推移したテナントが多く、変動収入が増加したことも月坪家賃単価を押し上げた要因になっています。

未稼働区画の状況

第1四半期の未稼働面積は4,000坪まで減少

■ 未稼働運行面積の推移（運行平均）



15

未稼働区画の状況です。

テナントリーシングが引き続き順調に推移し未稼働区画の面積が
前期の4,700坪から4,000坪まで減少いたしました。

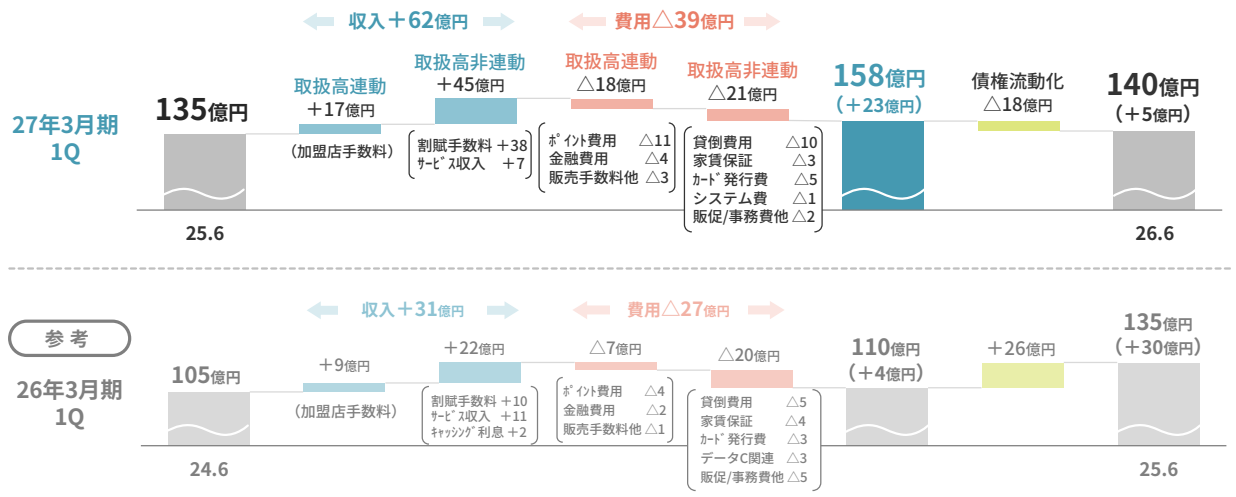
27年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

・連結
・小売
・フィンテック
・「好き」を応援するビジネス
・バランスシート/資本配分
・ESG
・通期見通し

フィンテックの状況です。

フィンテック　営業利益の増減内訳

債権流動化の影響を除いた実質営業利益は23億円の増益



17

営業利益増減の内訳です。

収入が費用を大きく上回り、債権流動化の影響を除いた実質営業利益は、23億円増の158億円と大きく伸長しました。

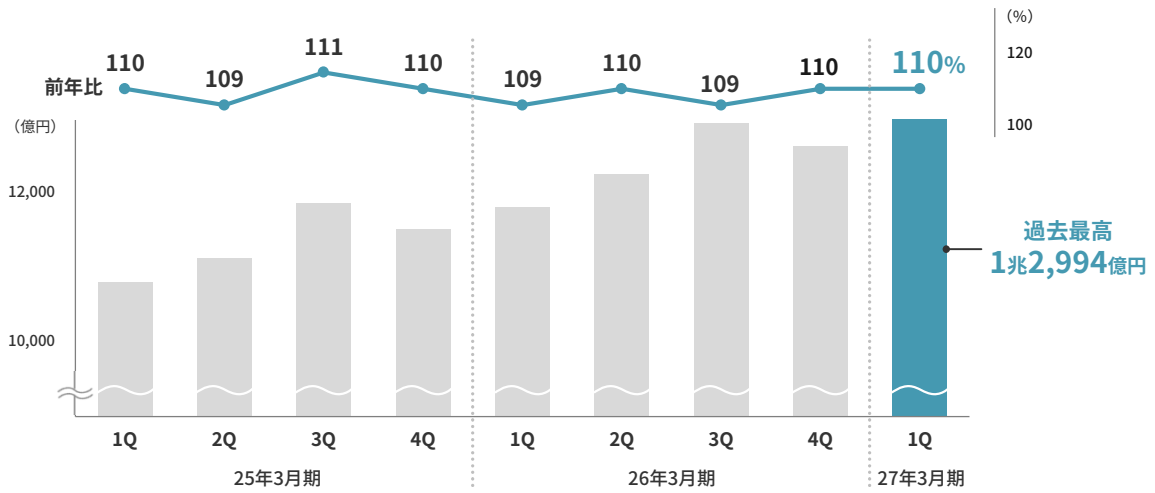
収入は、加盟店手数料が順調に拡大したことに加え、昨年10月に実施した分割リボ手数料率の引き上げにともない、前年から62億円増加しました。

費用では、前年のポイントプログラム改定の影響が一巡し、39億円増加しました。

カードクレジット取扱高の状況

第1四半期の取扱高は1兆2,994億円（前年比 110%）、四半期で過去最高

■ カードクレジット取扱高の推移



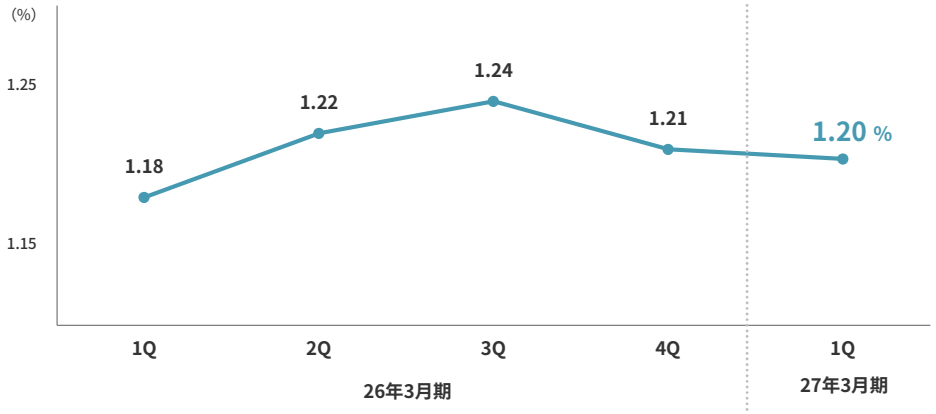
18

カードクレジット取扱高の推移です。
第1四半期の取扱高は1兆2,994億円となり、四半期で過去最高となりました。

加盟店手数料率の状況

前年7月に実施した外貨決済手数料率の見直し影響が継続、加盟店手数料率は前年差＋0.02%の1.20%

■ 加盟店手数料率の推移



＊加盟店手数料率：フィンテック取扱高に対する加盟店手数料収入の比率

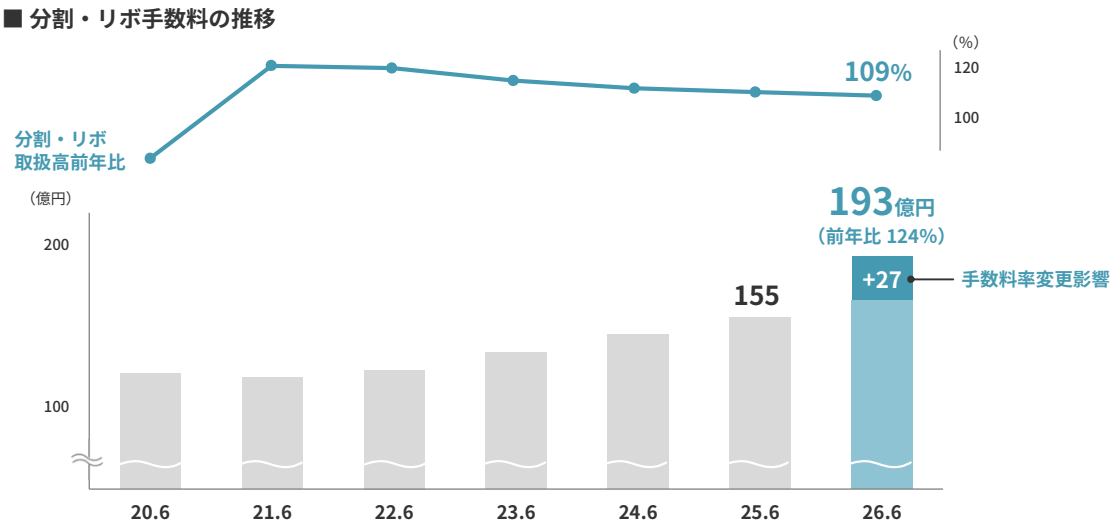
19

加盟店手数料率の推移です。

第1四半期の加盟店手数料率は、
25年7月からの外貨決済手数料引き上げもあり、前年に比べて0.02%増加し、
1.20%となりました。

分割･リボ手数料の状況

分割・リボ取扱高前年比は109%で推移し、手数料収入は24%増の193億円と大幅に拡大



20

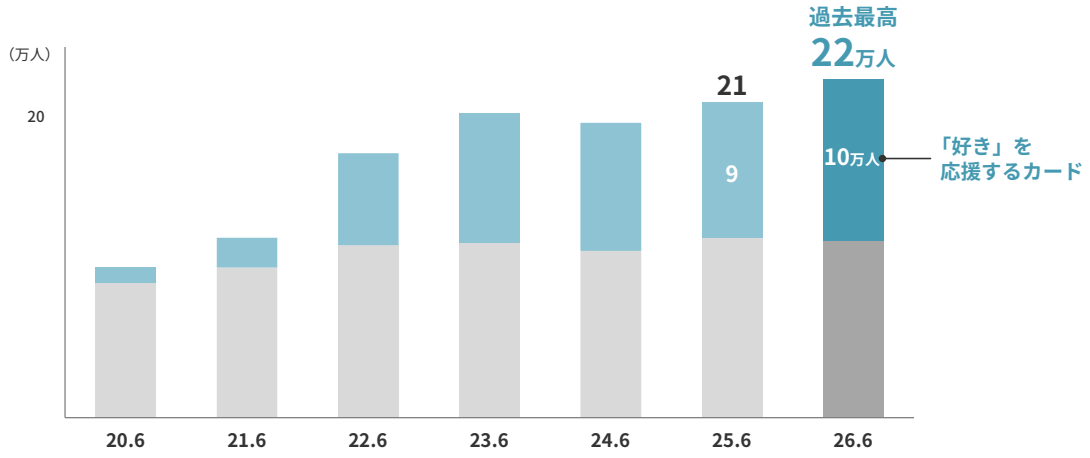
分割･リボ手数料の推移です。

分割・リボ取扱高の前年比は109%で推移し、
手数料収入は、手数料率変更も寄与し、24%増の193億円と大幅に拡大して
います。

新規入会の状況

新規入会は「好き」を応援するカードなどが寄与し過去最高の22万人

■ 新規入会の推移



21

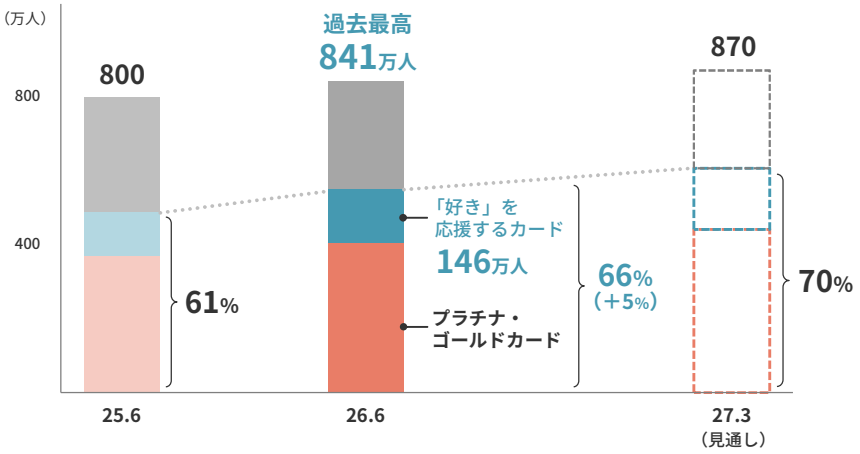
続いて新規入会の状況です。

第1四半期の新規入会は、「好き」を応援するカードの増加が寄与し、
前年に比べて1万人増の22万人となりました。

カード会員数の状況

カード会員数は前年から41万人増加し過去最高の841万人

■ カード会員数の推移



22

カード会員数の推移です。

カード会員数は、過去最高の841万人となりました。
「好き」を応援するカードの会員数は146万人となり、プラチナ・ゴールドカードを加えた会員数の構成は、66%まで拡大しました。

27年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

・連結
・小売
・フィンテック
・「好き」を応援するビジネス
・バランスシート/資本配分
・ESG
・通期見通し

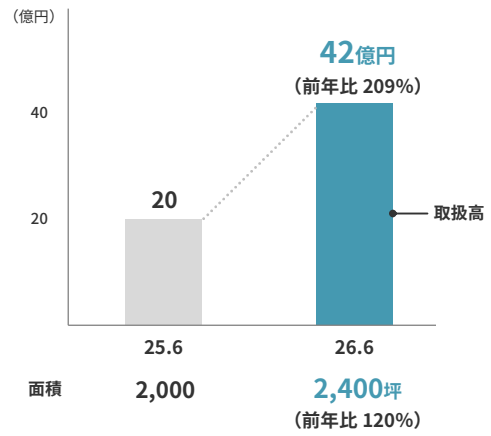
「好き」を応援するビジネスについてです。

「好き」を応援するビジネスの状況

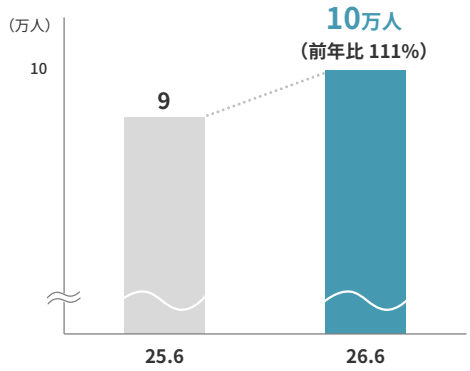
MARUI GROUP

「好き」を応援するイベント取扱高や「好き」を応援するカードの新規入会者数は順調に増加

■ 「好き」を応援するイベント取扱高・面積



■ 「好き」を応援するカード新規入会



24

「好き」を応援するイベントの面積は20%増の2400坪、
取扱高は109%増の42億円と順調に規模を拡大しています。

また、「好き」を応援するカードの新規入会は11%増の10万人と伸長いたしました。

「好き」を応援するユニットへの特化

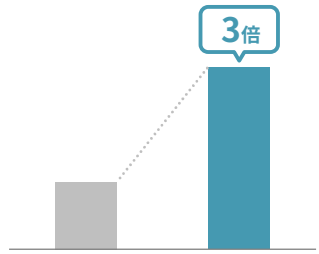
横浜スカイビルに「好き」を応援するユニットに特化して再出店、営業効率を大幅に改善

「好き」を応援するユニット

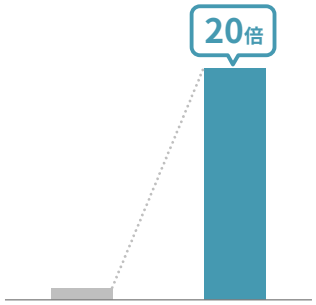
横浜スカイビル 8F



■ 1坪あたり取扱高



■ 1坪あたり新規カード入会



＊1坪あたり取扱高・新規カード入会：マルイシティ横浜 25年3月期 第1四半期実績、横浜スカイビル8F 27年3月期 第1四半期実績を使用

25

イベント、グッズ、カードなど、「好き」を応援するユニットに特化することで、店舗の営業効率にも変化が生まれています。
2月に閉店した横浜店は、横浜スカイビルにて「好き」を応援するユニットに絞って再出店しています。

第1四半期の１坪当たり取扱高は従前と比較し3倍に、
坪当たり新規カード入会は約20倍となり、営業効率が大幅に向上しています。

今後も、この「好き」を応援するユニットを全国へ展開しながら、
新規カード会員の拡大を進めることで、
よりアセットライトなビジネスモデルの展開を加速していきます。

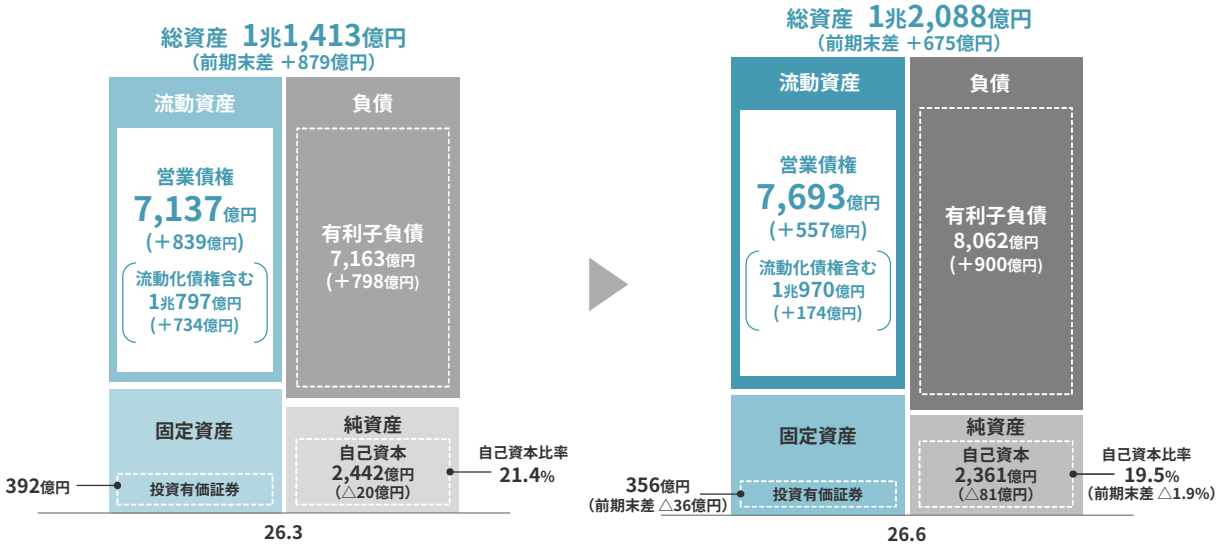
27年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

・連結
・小売
・フィンテック
・「好き」を応援するビジネス
・バランスシート/資本配分
・ESG
・通期見通し

バランスシート・資本配分についてです。

バランスシートの状況

総資産は営業債権の増加等により、前期末に比べて675億円増加



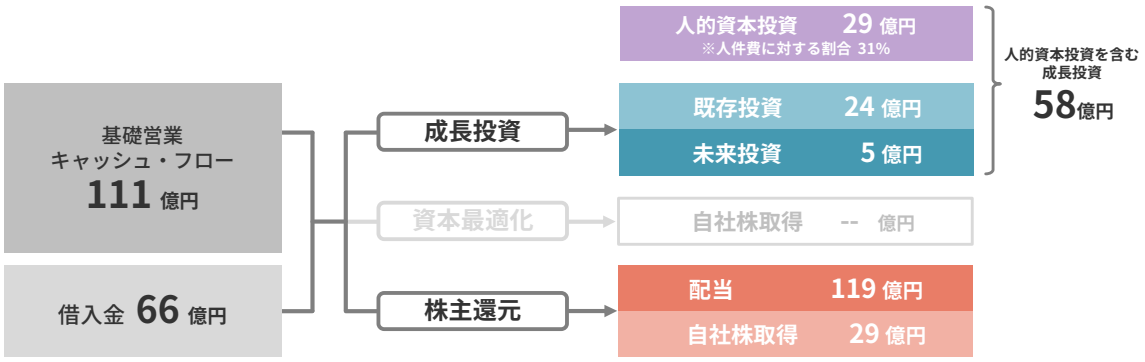
バランスシートの状況です。

総資産は、営業債権の増加等により、前期末に比べて675億円増加し
1兆2,088億円となりました。
自己資本比率は、前期末に比べて1.9%減少し、19.5%となりました。

資本配分

成長投資に29億円、株主還元に148億円を配分。人的資本投資は29億円で人件費に対する割合は31%

■ 資本配分（ 27年3月期 第1四半期）



28

資本配分です。

基礎営業キャッシュフロー111億円と借入金66億円を充当し、177億円を成長投資と株主還元に配分しました。

内訳は成長投資に29億円、自社株取得に29億円、配当に119億円となっております。
また、人的資本投資は29億円で、人件費に占める割合は31%となりました。

27年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

・連結
・小売
・フィンテック
・「好き」を応援するビジネス
・バランスシート/資本配分
・ESG
・通期見通し

ESGの状況です。

ESGの状況

6月に『FTSE4Good Index Series』、GPIFが採用するESG指数すべての構成銘柄に10年連続で選定

・世界的な社会的責任投資の株式指数

FTSE4Good
10年連続
（26年6月）

Dow Jones Best-in-Class World Index
構成銘柄に8年連続選定
Dow Jones Best-in-Class Asia Pacific Index
構成銘柄に9年連続選定
（26年5月）

・GPIFが採用するESG指数 （26年6月）

FTSE JPX Blossom Japan Index
FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index

2026 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数
2026 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

S&P/JPX カーボン エフィシェント 指数

MORNINGSTAR GenDi J
Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index
TOP CONSTITUENT 2026

・女性活躍推進、健康経営に関する選定 （26年3月）

NADESHIKO BRAND 2026
9年連続

2026 健康経営銘柄
9年連続は小売業で初

2026 健康経営優良法人 ホワイト500
10年連続

＊株価指数に関する免責事項：Appendix参照

30

6月に『FTSE4Good Index Series』と
GPIFが採用するESG指数すべての構成銘柄に10年連続で選定されました。

そのほかにも、ご覧の評価をいただいております。

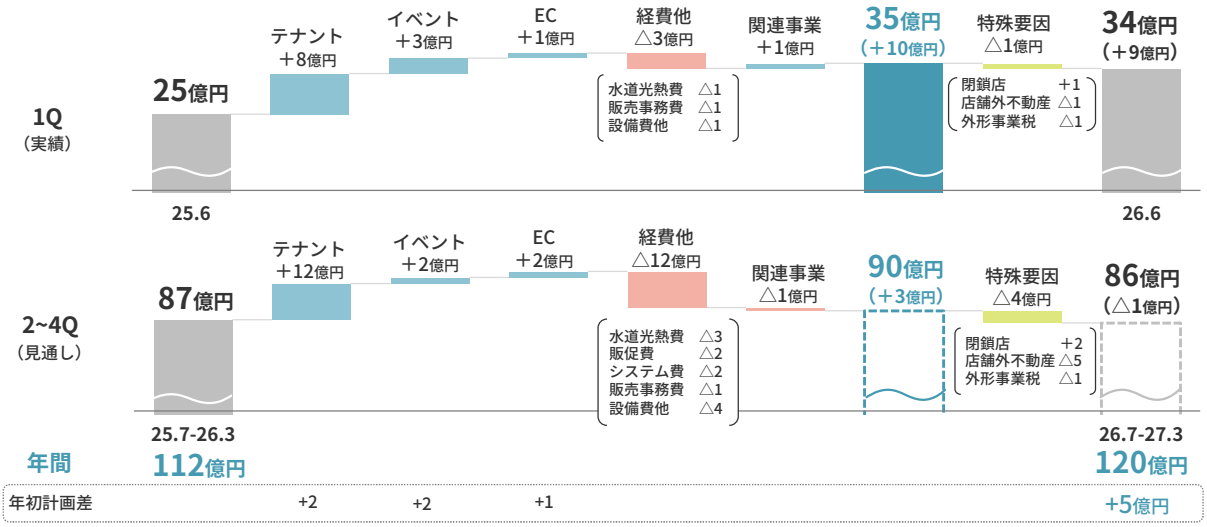
27年3月期 第1四半期 決算概要および各事業の状況

・連結
・小売
・フィンテック
・「好き」を応援するビジネス
・バランスシート/資本配分
・ESG
・通期見通し

最後に27年3月期の見通しです。

小売　営業利益の見通し

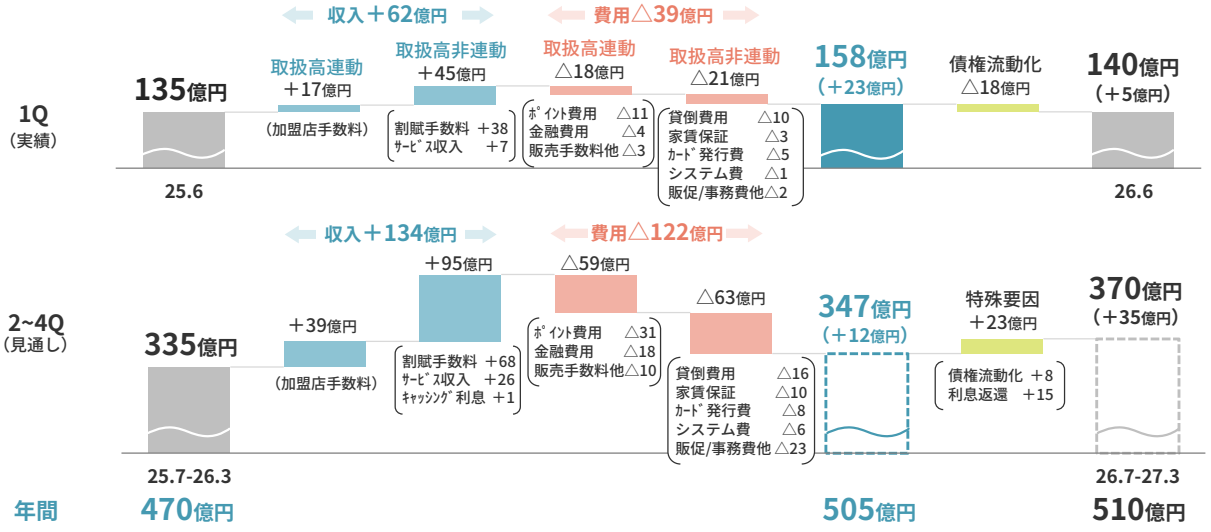
テナント・イベント収入が増加し、年初計画を5億円上回る120億円の見通し



小売の年間見通しです。
テナント収入・イベントが想定より好調に推移したことを受け、
営業利益の見通しは年初計画から5億円増の120億円に変更いたしました。
修正内容は、テナント、イベント収入でそれぞれ＋2億ずつとECで
＋1億になります。

フィンテック　営業利益の見通し

前年の利息返還損失引当金の反動を踏まえ、40億円の増益で年初計画どおりの見通し



33

フィンテックの営業利益の見通しです。
前年の利息返還損失引当金の反動を踏まえ、営業利益は510億円と
年初計画どおりです。

27年3月期　セグメント別営業利益見通し

小売の営業利益を年初計画から5億円引き上げ、連結営業利益を555億円に上方修正

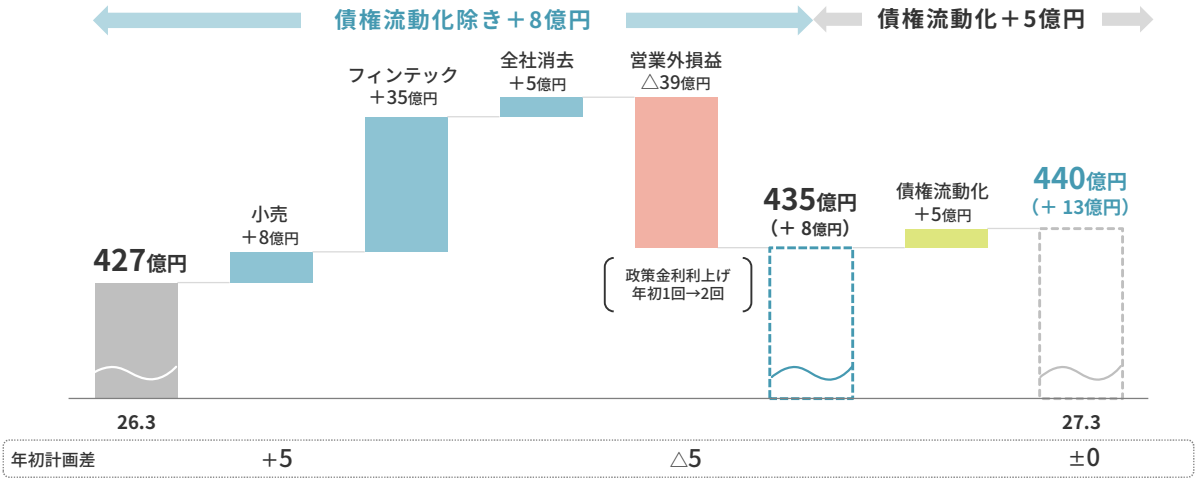
	26年3月期	27年3月期			
			年初計画差	前年比	前年差
	億円	億円	億円	%	億円
小売	112	120	＋5	107	＋8
フィンテック	470	510	－	108	＋40
全社・消去	△80	△75	－	－	＋5
連結営業利益	502	555	＋5	111	＋53

34

セグメント別の営業利益の外部公表案です。
小売を年初計画から5億円引き上げたことにともない、
連結営業利益を555億円に上方修正いたします。

27年3月期　経常利益の見通し

利上げ影響による金融費用増加を小売事業の上振れが吸収し、経常利益は計画通り440億円を見込む



35

続いて、経常利益の見通しです。
足許で金利上昇ペースが速まる観測が出ていることから、
金融費用は年初計画から5億円程度増加する見通しです。
従いまして、営業利益5億の上方修正と、金融費用の増加を相殺し、
経常利益は変更なしの440億円といたします。

27年3月期　通期見通し

MARUI GROUP

EPS・ROEのKPIは計画通り前年を上回る見通し

	26年3月期	27年3月期	年初計画差	前年比	前年差
EPS （円）	158.4	164.0	－	104	＋5.6
ROE （%）	11.6	11.8	－	－	＋0.2

＜ 参考 ＞

	兆　億円	兆　億円	億円	%	億円
グループ総取扱高	5 3,921	5 9,050	＋50	110	＋5,129
売上収益	2,769	2,965	＋5	107	＋196
売上総利益	2,423	2,605	＋5	108	＋182
販管費	1,921	2,050	－	107	＋129
営業利益	502	555	＋5	111	＋53
経常利益	427	440	－	103	＋13
当期利益	285	295	－	104	＋10

36

以上を踏まえた通期見通しです。
連結営業利益は＋5億の555億、経常利益、当期利益の見通しは
年初計画どおり。
結果、EPS・ROEの見通しは当初計画どおりで、いずれも前年を上回る
見通しです。
なお、債権流動化の実施計画につきましてはアペンディクスに入れて
おりますので、のちほどご確認ください。

自社株取得枠の設定

株価に将来の収益性が十分に織り込まれない場合などに

機動的に自己株式を取得

最大 200億円 の取得枠を設定

（ 取得期間 26年8月10日～27年5月15日 ）

最後に、自社株買いについてです。
本決算発表時には、PBRが2倍を超えていたことと、金融費用を取り巻く
環境を踏まえて、機動的な自社株買いの設定は見送りましたが
今期に入り、AI関連株への資金流入などの外部要因によって株価の
ボラティリティが高まることがあったため
こうした状況に機動的に対応するため200億円の自己株取得枠を
設定いたしました。

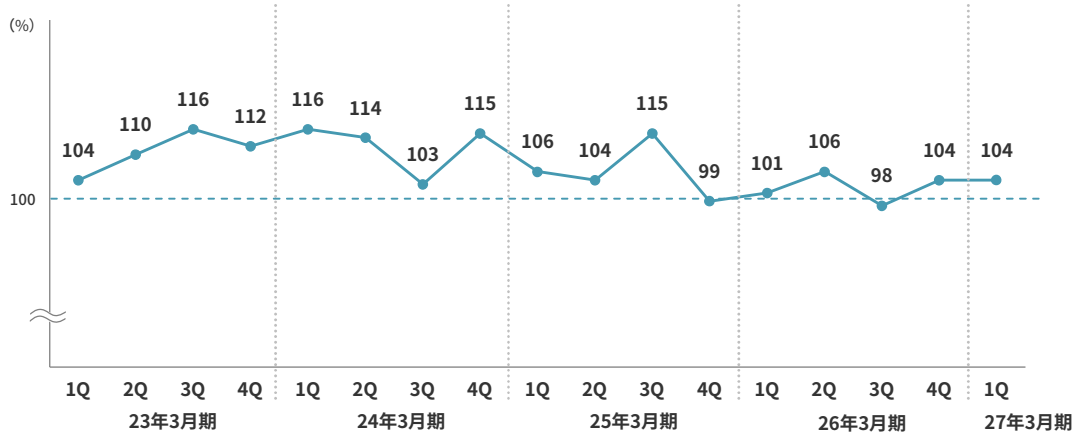


ご説明は以上です。
ご清聴ありがとうございました。

Appendix

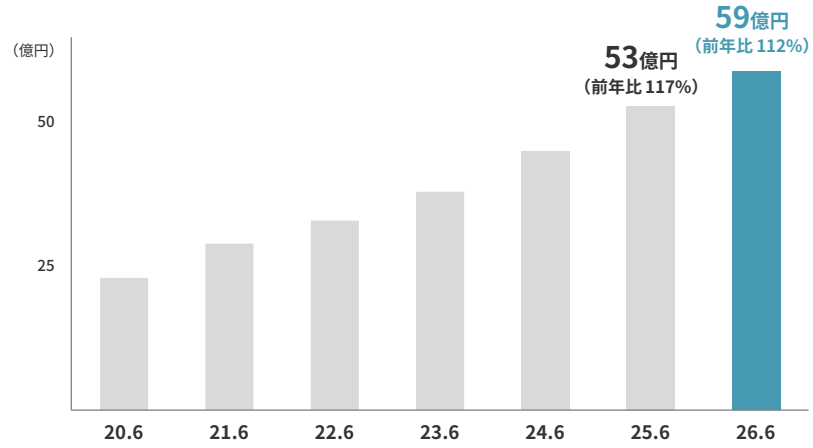
EC取扱高の状況

■ EC取扱高 前年比



家賃保証の状況

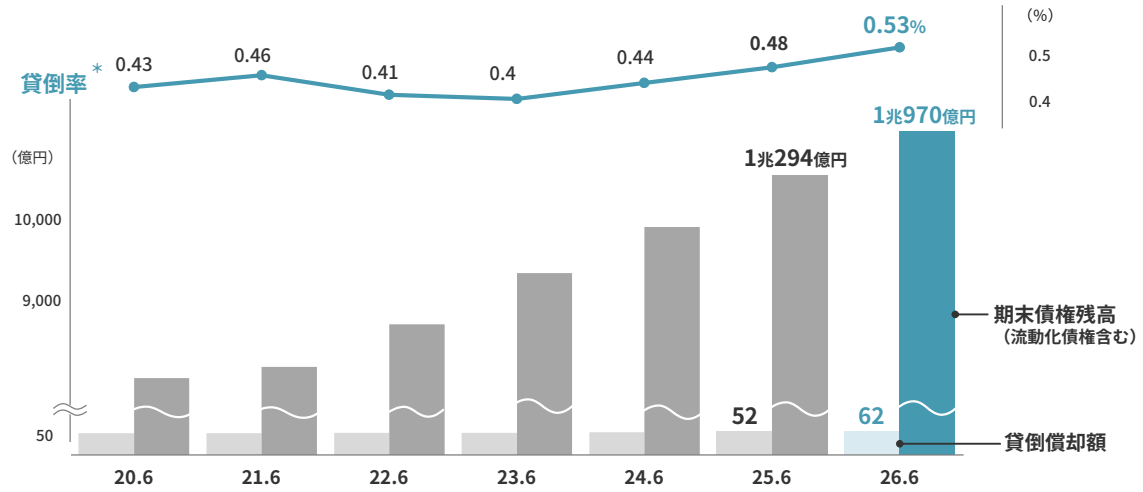
■ 売上収益の推移



41

貸倒の状況

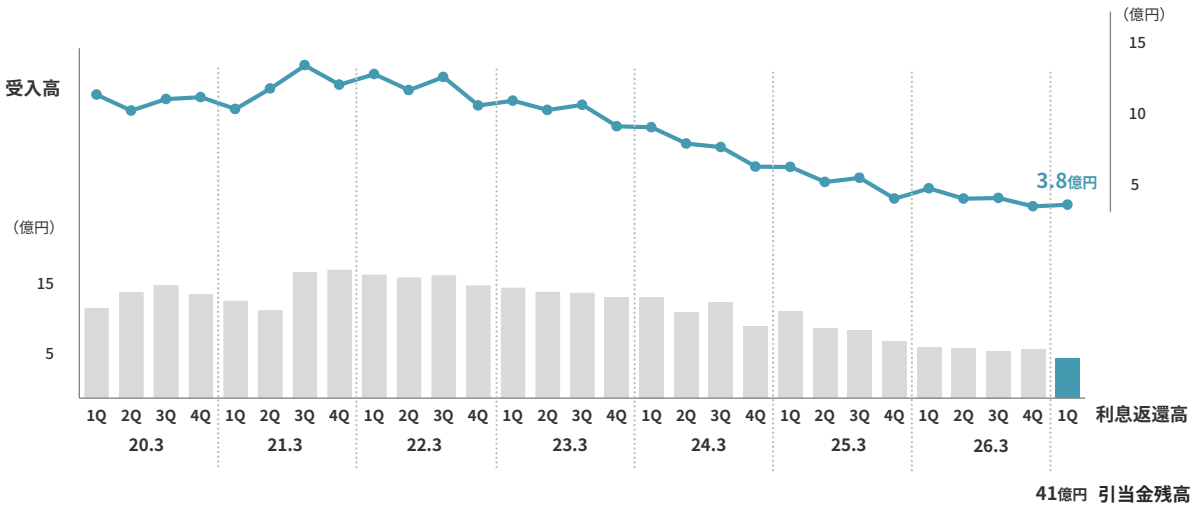
■ 貸倒率の推移



＊貸倒率 ＝ 当期貸倒償却額 ÷ 期末債権残高（償却額・債権残高ともに保証分を除く）

利息返還の状況

■ 受入高と利息返還高の推移



債権流動化の見通し

■ 27年3月期 見通し

（億円）

	1Q（実績）	前年差	2Q（見通し）	前年差	上半期（見通し）	前年差	下半期（見通し）	前年差	年間（見通し）	前年差
影響額 ①+②	―	+19	―	+18	―	+37	―	△10	―	+27
分割リボ手数料変更①	27	+27	29	+29	56	+56	61	+11	117	+67
金利上昇影響②	―	△8	―	△11	―	△19	―	△21	―	△40
流動化影響	7	△18	△1	△6	6	△24	△39	+14	△34	△10
譲渡益	34	―	25	―	59	―	12	―	71	―
償却等	△27	―	△26	―	△53	―	△51	―	△104	―
		+1		+12		+13		+4		+17

44

- 株価指数に関する免責事項 -

- THE INCLUSION OF MARUI GROUP CO., LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICEMARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF MARUI GROUP CO., LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.
- Morningstar, Inc., and/or one of its affiliated companies (individually and collectively, "Morningstar") has authorized MARUI GROUP CO., LTD. to use of the Morningstar® Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index Logo ("Logo") to reflect the fact that, for the designated ranking period, MARUI GROUP CO., LTD. ranks within the top group of companies comprising the Morningstar® Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index ("Index") on the issue of gender diversity in the workplace. Morningstar is making the Logo available for use by MARUI GROUP CO., LTD. solely for informational purposes. MARUI GROUP CO., LTD.'s use of the Logo should not be construed as an endorsement by Morningstar of MARUI GROUP CO., LTD. or as a recommendation, offer or solicitation to purchase, sell or underwrite any security associated with MARUI GROUP CO., LTD. The Index is designed to reflect gender diversity in the workplace in Japan, but Morningstar does not guarantee the accuracy, completeness or timeliness of the Index or any data included in it. Morningstar makes no express or implied warranties regarding the Index or the Logo, and expressly disclaims all warranties of merchantability or fitness for a particular purpose or use with respect to the Index, any data included in it or the Logo. Without limiting any of the foregoing, in no event shall Morningstar or any of its third-party content providers have any liability for any damages (whether direct or indirect), arising from any party's use or reliance on the Index or the Logo, even if Morningstar is notified of the possibility of such damages. The Morningstar name, Index name and the Logo are the trademarks or services marks of Morningstar, Inc. Past performance is no guarantee of future results.
- FTSE Russell (the trading name of FTSE International Limited and Frank Russell Company) confirms that MARUI GROUP CO., LTD. Has been independently assessed according to the FTSE4Good criteria, and has satisfied the requirements to become a constituent of the FTSE4Good Index Series. Created by the global index provider FTSE Russell, the FTSE4Good Index Series is designed to measure the performance of companies demonstrating strong Environmental, Social and Governance (ESG) practices. The FTSE4Good indices are used by a wide variety of market participants to create and assess responsible investment funds and other products.
- FTSE Russell confirms that MARUI GROUP CO., LTD. has been independently assessed according to the index criteria, and has satisfied the requirements to become a constituent of the FTSE JPX Blossom Japan Index. Created by the global index and data provider FTSE Russell, the FTSE JPX Blossom Japan Index is designed to measure the performance of companies demonstrating specific Environmental, Social and Governance (ESG) practices. The FTSE JPX Blossom Japan Index is used by a wide variety of market participants to create and assess responsible investment funds and other products.
- FTSE Russell confirms that MARUI GROUP CO., LTD. has been independently assessed according to the index criteria, and has satisfied the requirements to become a constituent of the FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index. The FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index is used by a wide variety of market participants to create and assess responsible investment funds and other products.

＊ FTSE4Good Index Series (https://www.lseg.com/en/ftse-russell/indices/ftse4good)
＊ FTSE Blossom Index Series (https://www.lseg.com/en/ftse-russell/indices/blossom-japan)


END